



# 「こんにちは 市長です」

4月1日号

今月末で今上天皇が退位される。東日本大震災以後大きな災害が続いてきたが、そのたびに被災地住民に寄り添い温かい励ましのお言葉を掛けられてきた天皇陛下、皇后さまは新しい皇室のあるべき姿をつくりあげられたと思う。体育館にひざまずく姿には驚きでもあった。幸いなことに天皇陛下、皇后さまに三度、お近くで接することができた。

「津波来し時の岸辺は如何なりしと見下ろす海は青く静まる」7年前の歌会始、天皇陛下の御製（お歌）です。実は、この年の歌会始にお招きいただいたのです。皇居、東宮御所に入り松の間に案内され着座。招待されたのは100人ほどだった。天皇陛下、皇后さまに続き皇太子殿下など皇室の方々が大広間右手から無音のなかを歩まれ、座られる。静寂の中、詠み人が独特の口調でお歌を詠まれるのである（区切りの語尾を上げて読む）。前年、3・11東日本大震災が起こった。その5月には被災地にお見舞いに行かれたがその折、へりから被災地を見ての印象を詠まれたものだ。皇后さまから皇室の方々、そして歌会始へ応募された方の選歌へと、詠み人の声のみが広間に響き、皇室の方々が部屋を後にするまで静寂が続いた。

太田に来られたことが二度あった。市役所で昼食を取られた。私は皇后さまの左に座り、天皇陛下を目の前にした。お二人はブラジルご訪問のこと冗舌に語っていた。沢野中央小でブラジルの子どもたちの勉強ぶりをご視察されるのが目的であった。帰り際、小雨がぱらついてきたのでとっさに傘を広げ天皇陛下をお車まで送った。今考えると出過ぎたことをしてしまったのかもしれない。でも、陛下は何も言わずずっと差し出す傘に入ってきてくれたのである。

両陛下がこどもの国の児童会館に来られたことがあった。ご視察も終わり、やはり帰り際、皇后さまに小声でお願いした。「重度の身体障がいのある子どもが二人車椅子にいるのですが、皇后さまのお言葉をいただければと思うのですが…」「分かりました」嫌な顔もせずそのまま二人のところに近づいて行った。手を添え「頑張ってくださいね」とお声を掛けてくれたのだ。皇后さまの優しさを目の前にしてうれしさが込み上げてきた。後日、宮内庁から注意の電話があったということを知った。